

科目番号	2F-11,4F-13	科目名	高齢者福祉論Ⅰ・Ⅱ
大学名	長崎ウエスレヤン大学	担当教員	中野 伸彦(現代社会学部 教授)
開講形態	既存科目・前期・後期	曜日	前期 木曜日 / 後期 月曜日
教養・専門別	専門	時限	前期 1時限/後期 4時限
単位数	各2単位	開講期間	2020年4月9日(木)~2021年1月25日(月) 曜日振替11/26、月曜授業
授業定員	80人	開講時間	前期:8時50分~10時20分(90分)「毎週 木曜日」 後期:14時50分~16時20分(90分)「毎週 月曜日」
履修年次	2年次以上	試験・評価方法	受講態度及び論文形式の試験
開講場所	長崎ウエスレヤン大学	実習費等	なし
選考方法	書類選考	その他の特記事項	
連絡先	長崎ウエスレヤン大学 教務学生課 TEL 0957-26-8274 FAX 0957-26-2063		

科目内容

超高齢社会を間近に迎え、介護需要の飛躍的な高まりと介護保険等の諸施策の登場によって高齢者問題への関心は昨今、急激な高まりをみせている。その将来展望と課題を見据えつつ、本講義ではケアする側とされる側の双方に求められる人間関係(尊ね=学びの関係)の有り様を検証していく中で支えの原則を明確にし、豊かな老後を生きるための知恵を模索する。そこで全体を①<老い>をみつめる②<老い>を支えるの2部構成とし、前半は<老い>にまつわる様々な相貌に触れ<老い>の世界を私達の日常性に深く関わる社会的現実へと啓いた後、その学びを後半の<老い>を支える視点へと繋がっていく。

科目番号	2F-12	科目名	障害者福祉論
大学名	長崎ウエスレヤン大学	担当教員	金文華(現代社会学部 教授)
開講形態	既存科目・前期	曜日	木曜日
教養・専門別	専門	時限	2時限
単位数	2単位	開講期間	2020年4月9日(木)～2020年7月16日(木)
授業定員	80人	開講時間	10時30分～12時00分(90分)「毎週 木曜日」
履修年次	2次以上	試験・評価方法	テストまたはレポートにより評価。
開講場所	長崎ウエスレヤン大学	実習費等	なし
選考方法	書類選考	その他の特記事項	
連絡先	長崎ウエスレヤン大学 教務学生課 TEL 0957-26-8274 FAX 0957-26-2063		

科目内容

障害者福祉論の講義では、障害の定義、障害者の実態、障害者福祉の歴史、障害者総合支援法等障害者福祉制度とサービスの体系、障害者をめぐる動向、障害者に対する相談援助活動などのテーマを通じて、障害者福祉の現状及び障害者の相談援助活動に必要な知識を学ぶことを目的とする。

科目番号	4F-12	科目名	精神障害者の生活支援システム
大学名	長崎ウエスレヤン大学	担当教員	山口 弘幸(現代社会学部 教授)
開講形態	既存科目・後期	曜日	木曜日
教養・専門別	専門	時限	4時限
単位数	2単位	開講期間	2020年10月1日(木)～2021年1月21日(木)
授業定員	80人	開講時間	14時50分～16時20分(90分)「毎週 木曜日」
履修年次	1年次以上	試験・評価方法	授業態度50%・ペーパーテスト50%
開講場所	長崎ウエスレヤン大学	実習費等	なし
選考方法	書類選考	その他の特記事項	
連絡先	長崎ウエスレヤン大学 教務学生課 TEL 0957-26-8274 FAX 0957-26-2063		

科目内容

精神障害者の生活支援システムは、精神障害者とその家族の暮らしの実相を捉え、豊かな生のあり方について考えるものである。人間の生活が社会・経済・文化的状況に規定されながら営まれている以上、疾病や障害への理解のみならず精神障害者やその家族のとり置かれた社会環境と生活状況への深い認識は欠かせないものである。本講義では、精神障害者とその家族の暮らしの実相を捉えることを主眼としながら、居住支援並びに就労支援の支援内容と精神保健福祉士の役割について学習する。また行政における相談援助の展開を踏まえつつ、求められる精神障害者の地域生活支援システムと今日的ニーズについて理解を深める。

科目番号	2F-13	科目名	現代中国経済事情
大学名	長崎ウエスレヤン大学	担当教員	登り山 和希(現代社会学部 准教授)
開講形態	既存科目・前期	曜日	月曜日
教養・専門別	専門	時限	1時限
単位数	2単位	開講期間	2020年4月6日(月)～2020年7月20日(月)
授業定員	80人	開講時間	8時50分～10時20分(90分)「毎週 月曜日」
履修年次	3年次以上	試験・評価方法	授業取り組み状況(25%)レポート(25%)最終試験(50%)
開講場所	長崎ウエスレヤン大学	実習費等	なし
選考方法	書類選考	その他の特記事項	
連絡先	長崎ウエスレヤン大学 教務学生課 TEL 0957-26-8274 FAX 0957-26-2063		

科目内容

周知のように、中国の国内総生産(GDP)総量は世界2位、輸出額、外貨準備高は世界1位。経済成長率も高水準で推移している。このような成功を、中国が「改革・開放」政策に転換した当時、誰が予測できたであろうか。輸出主導型発展の軌跡をふりがえりながら、成功の秘密を理解してもらおう。低賃金構造はその主たる要因であるが、自動車産業に代表される資本集約型企業が築いてきた競争力に目を見張るだろう。

しかし、このような発展過程で都市と農村間、都市内部、農村内部、地方間に大きな経済格差を生み出されてきた。これに対応した社会保障や医療制度など社会のセーフティネット構築が遅れており、都市と農村を分断する二元的構造もあいまって、農民をはじめとする社会底辺からの不